

■環境絵日記とは？

環境絵日記展がスタートしたのは2000年。横浜市でリサイクル事業を展開する横浜市資源リサイクル事業協同組合が、市内の小学生を対象に、夏休みに家族で環境問題を考えるきっかけになればと始めました。初回の応募数は1152件でしたが09年には1万件を突破。しかし、当初の目的は達成したものの思わぬ難問が発生。人的にも費用的にも、片手間でできるプロジェクトの範囲を大きく超えたことです。そうした中、新たなパートナーが登場。12年からは環境未来都市の選定を受けた横浜市と連携し、「環境未来都市環境絵日記展」としてリスタート。さらに、数十社に及ぶ企業等の協賛も得て、万全ではないものの将来に向けた運営体制が整いつつあります。ちなみに13年の応募数は1万9128件です。これは市内の小学生の約1割に相当し、参加者はこの14年間で延べ12万人を超えています。

■全国環境絵日記実行委員会の結成

横浜市での取組みとは別に、この活動を全国に広げようと、10年に全国環境絵日記実行委員会が結成されました。構成メンバーは、運営ノウハウを持つ横浜市資源リサイクル事業協同組合、全国で「こどもエコクラブ」を展開している公益財団法人日本環境協会、絵日記の画像データベース構築に協力する富士ゼロックス株式会社、そして市民やNPO等の活動を支援する日本財団CANPANプロジェクト。

各地域でのプロジェクト運営には、その地域に密着し地道に活動を支援していく企業や団体等の存在が不可欠になるため、主体となる運営希望者を募り、全国環境絵日記実行委員会が持つノウハウを提供し、支援をしようというものです。

■広がりの兆しを見せる環境絵日記展

一般助成を受けて1年目の全国環境絵日記実行委員会ですが、活動の広がりの兆しは「環境未来都市・環境絵日記展2013」にも現れています。この参加者の中心は横浜市の小学生ですが、環境未来都市の選定を受けた北海道下川町、宮城県東松島市、福島県南相馬市。また、全国環境絵日記実行委員会が働きかけた高知県、京都府宮津市、そして横浜市の紹介によるブラジルのクリチバ市からも応募がありました。

「横浜市がモデルですが、いろいろなパターンがあつていいと思います。被災地・東松島市の市役所職員の方は、子どもたちがどのような環境絵日記を描くか経年で見ていきたいと話されています」（戸川孝則さん）、「子どもたちからのメッセージには大人が気付かない新鮮なものがたくさんあり、感動すること」（中田輝久さん）、「町づくりや地域起こし等と絡めることもできます」（栗原清剛さん）。

全国環境絵日記実行委員会は、子どもたちの環境意識を育むために地域でこの活動を定着させ、いずれは全国規模の環境絵日記展の開催を目指したいと考えています。

Partners' Talk

全国環境絵日記実行委員会

家族で環境を考える きっかけとなる「環境絵日記」

横浜市内で小学生を対象にした環境絵日記展を続けて14年。

この活動を全国に広げようと結成したのが、

全国環境絵日記実行委員会です。

一般助成を受けているその活動内容を、

中核メンバーの皆さんにお話いただきました。

助成団体
レポート

*「環境未来都市・環境絵日記展2013」で特別賞を受賞した作品の一部を、本誌の裏表紙に掲載しています。



2012年度から横浜市と連携し開催している「環境未来都市・環境絵日記展」



応募数1万9,128作品の中から選ばれた2013年度の優秀特別賞の表彰式



お話を伺った皆さん。右から、戸川孝則さん（全国環境絵日記実行委員会 事務局長）、栗原清剛さん（横浜市資源リサイクル事業協同組合 副理事長）、中田輝久さん（日本環境協会・こどもエコクラブ全国事務局）